

経営比較分析表（令和4年度決算）

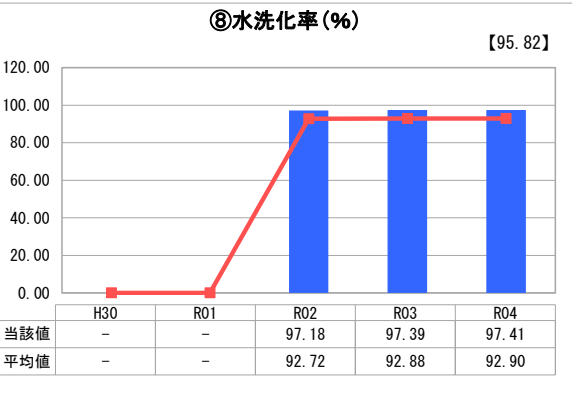
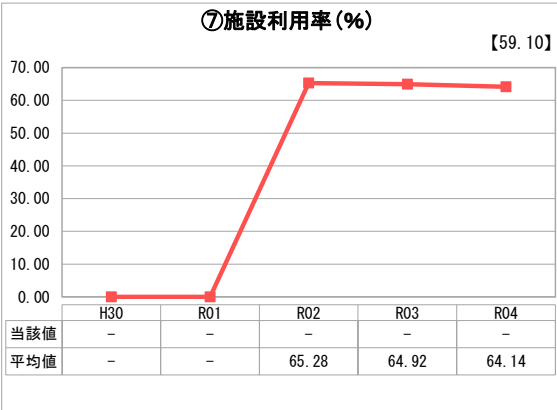
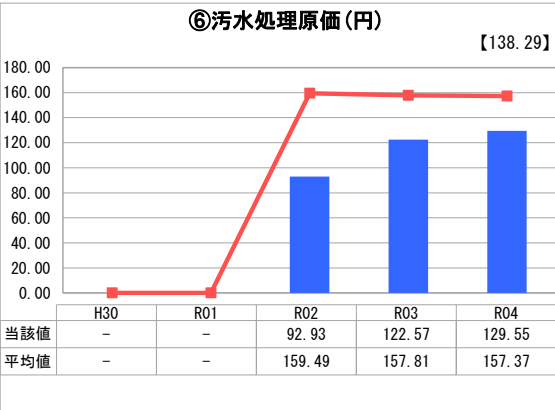
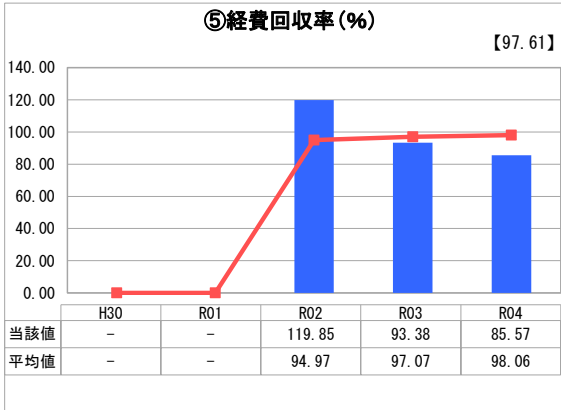
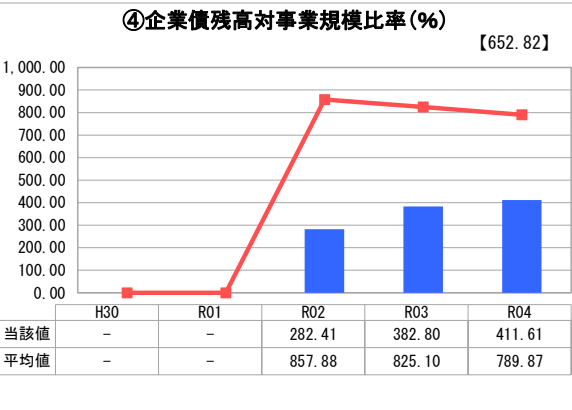
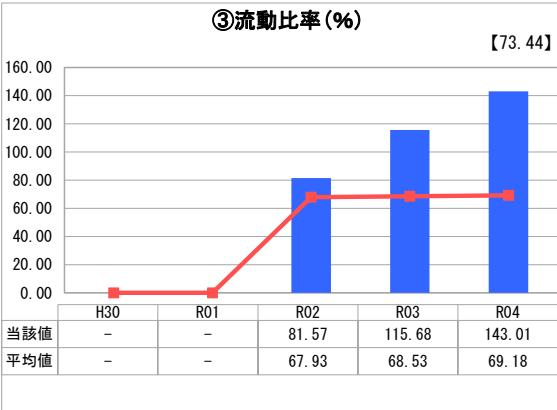
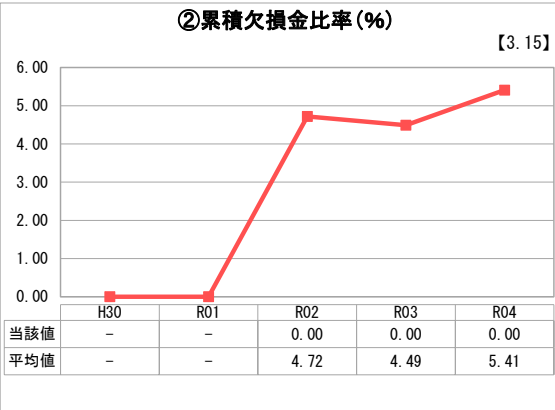
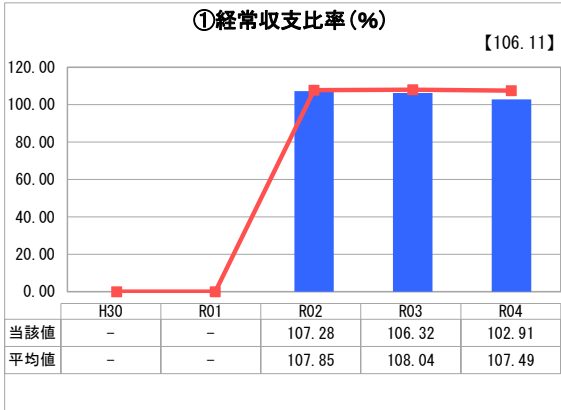
東京都 瑞穂町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Bd1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	82.86	98.17	85.66	1,600

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
32,161	16.85	1,908.66
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
31,545	8.22	3,837.59

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率について、前年度から減少しているが黒字を示す100%以上を維持している。平均値と比較して開きが大きくなってきており、一般会計繰入金の基準外繰入に依存している状況である。

③流動資産の増加、流動負債の減少により流動比率は前年度から増加している。

④企業債残高対事業規模比率について、企業債に依存しすぎることはなく、平均値と比較して低い状況である。一方で、今後、都道の拡幅工事に伴う移設工事等の財源として多額の企業債を予定しており、企業債残高は増加する見込みである。

⑤経費回収率は減少傾向であり、平均値の開きも大きくなってきてる。計画的な維持管理を行うとともに、下水道使用料の適正化について検討する必要がある。

⑥汚水処理原価について、平均値と比較して効率的な汚水処理が実施されている。更なる有収水量の増加に努めるとともに、費用の平準化を図り計画的に維持管理を行う。

⑧水洗化率について、平均値を上回った状況であるが、引き続き接続率の向上に努め、水洗化率100%を目指す。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は法適用3年目であり、徐々に増加して平均値に近づいてきている。実際は昭和49年度から布設を始めた管路施設や昭和59年度に運転を開始したポンプ場など相当年数を経過しているものがあることを認識している。

③管渠改善率について、管渠の更新等を行わなかったため、低水準となっている。町が管理する下水道施設の平均経過年数は30年を超えており、今後はストックマネジメント計画に基づき、計画的に管渠改善を図っていく必要がある。

全体総括

経営の健全性・効率性について、平均値と比較して概ね健全で効率的な経営を行っている。一方、経費回収率が下がってきて、人口減少など下水道使用料収入の増加も見込めないため、経営戦略改定時に使用料改定も含めた財源確保を検討していく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。